

日本環境共生学会 第17回（2014年度）学術大会 実施報告

1. はじめに

2014年9月27日（土）～28日（日）の2日間、徳島大学工学部キャンパスにおいて、日本環境共生学会 第17回（2014年度）学術大会が開催された。開催期間中は晴天に恵まれ、約110人の参加者があった。

初日の9月27日の午前中は、徳島県神山町へのテクニカルツアーが行われた。午後は、まず開会式が行われ、山中英生大会実行委員長、林良嗣学会長、開催校の吉田和文徳島大学副学長の挨拶があった。その後の学会賞授賞式に続き、「地域の継承に向けて—津波防災と次世代へつなぐ環境共生まちづくり—」というテーマでシンポジウムが開催された。2日目の9月28日は、3会場で口頭発表、1会場でポスター発表が行われた。各セッションでは、環境問題をはじめ、エネルギー、地域経済、さらにまちづくりなど多岐にわたる課題について、環境共生という共通テーマのもと熱心な議論が行われた。



写真1 開会式での林会長の挨拶



写真2 テクニカルツアー

2. テクニカルツアー

テクニカルツアーには、26名（うち学生6名、スタッフ3名）が参加した。まず、神山町農村改善センターに赴き、NPO法人グリーンバレー代表の大南信也氏から50分ほどのレクチャーを受けた。神山町はサテライトオフィスがこぞって開設されていることで全国的に有名になっているが、大南氏からは、そこに至るまでの取り組みや経緯をうかがうことが出来た。これまでの取り組みの中でも地域が希望する職種を絞って移住者を募集するワーク・イン・レジデンスが契機になったとのことであった。また、サテライトオフィスの相次ぐ開設は、それだけでとどまる話ではなく、そうした動きによってレストランや宿泊施設の開業も起こり、そこで地元でつくられる有機野菜を使用するなど農業をも含んだ循環が生まれていることも説明していただいた。

レクチャーの後は、NPO法人グリーンバレーの方に案内していただき、サテライトオフィスのひとつである株式会社プラットイーズの「えんがわオフィス」を見学した。

3. シンポジウム

シンポジウムは、日本環境共生学会および徳島大学地域創生センター主催、徳島大学環

境防災研究センターおよび公益社団法人土木学会共催により、「地域の継承に向けて一津波防災と次世代へつなぐ環境共生まちづくり」というテーマで開催された。このシンポジウムは一般市民への公開行事でもあり、学会の会員はもとより、地元の行政職員、民間事業所などで津波防災やまちづくりに携わる実務者、さらには一般市民を加え、約180人が来場し、熱い議論が交わされた。

最初に、徳島大学津波防災持続可能まちづくり研究会より、「徳島東部都市圏における次世代のすまいを考えたまちづくり」、「徳島県美波町における次世代継承へのごっつい由岐の未来づくりプロジェクト」と題した2つの話題提供があった後、徳野貞雄熊本大学教授による基調講演「地域の継承とT型集落点検」が行われた。時代の流れとともに人の能力や価値観が変化するなか、地域を継承することの本質をしっかりと捉え、適切な調査を実施し、時代を見越した対応を考えていくことの重要性を熱く語られた。引き続き、「津波防災と次世代へつなぐ環境共生まちづくり」というテーマで、山中英生大会実行委員長をコーディネータとしたパネルディスカッションが行われた。



写真3 徳野貞雄先生による基調講演



写真4 パネルディスカッション

4. 学術セッション

学術セッションとして口頭発表とポスター発表が実施された。口頭発表は、初日のシンポジウム終了後にも2セッションが行われており、この日に行われた12セッションと合わせ、合計14セッションが実施された。このうち、10セッションは一般の口頭発表セッションで、合計38の発表が行われた。また、4セッションは企画セッションであり、「レジリエントで持続可能な国土・地域デザインに資する地球環境情報統融合ワークベンチの構築」、「Burma's transition, diversity and environmental change」、「環境社会影響評価の新しい潮流」および「臨床環境学が築く持続的共発展への道」と題したテーマでセッションが行われた。どの企画も環境共生というテーマを根底とし、学際的で、先駆的なチャレンジングなものであった。

ポスター発表は、27日の午後と28日の午後に、60分ずつのセッションが持たれた。また、28日の午前中は、ポスター展示がなされた。全部で13件の発表があり、各ポスターの前では熱心な発表とディスカッションが行われた。



写真5 口頭発表会場

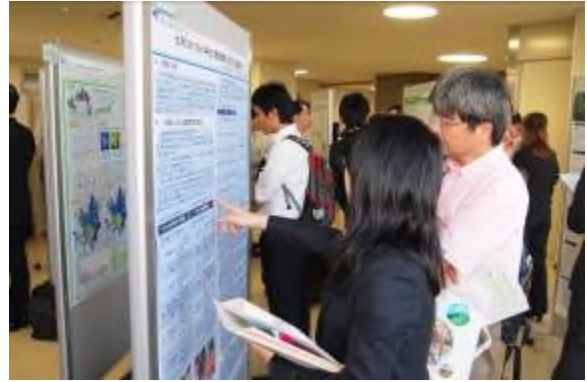


写真6 ポスター会場

5. 学会賞授賞式

27日の午後には、学会賞授賞式が開催された。木村美智子表彰委員長による挨拶の後、林良嗣会長から学会賞が授与された。受賞者は次の方々（敬称略）である。

論文賞：九里徳泰（富山県立大学）

論文賞：森保文（国立環境研究所）

環境活動賞：伊藤雅一・岡村聖（名古屋産業大学）

環境共生功労賞：中上英俊（株式会社住環境計画研究所）

さらに、本年5月31日に開催された日本環境共生学会地域シンポジウム・ポスターセッションにおける優秀発表賞が授与され、次の2名の方（敬称略）が受賞された。

平野勇二郎（国立環境研究所）

柴田達矢（名古屋大学大学院）



写真7 学会賞授賞式



写真8 懇親会

6. おわりに

今回の大会は地域継承と環境共生をテーマとして、次世代の人たちをいかに地域に根付かせるかという課題について、テクニカルツアー、シンポジウム、パネルディスカッションを企画した。実践をこなしてこられた神山の大南氏の講演、社会学を基礎とされながらも実践者である徳野教授の講演、さらには学会メンバーを含めたパネルディスカッション

は、大きな刺激を得る機会となったと思う。また、学会初日の夜には、徳島大学生協第二食堂において 50 名の参加者で懇親会が行われ、来賓として、基調講演の徳野教授からの印象に残るスピーチに続いて泉伸一郎科学技術振興機構社会技術研究開発センター長からは本会の学祭研究への期待の言葉をいただき、なごやかながら充実した会となった。

最後に、この大会の準備、運営に際し、多くの方々にご協力、ご支援をいただいた。お力添えを賜ったすべての皆様に感謝を申し上げ結びとする。